

IT化スモールスタート解説(第2回)

Wi-Fiが繋がらないときに確認するポイント

2020.03.19



職場のネットワークに接続する際、「今まで使えていたのにWi-Fiが繋がらなくなった」という経験をした方は多いのではないのでしょうか。

今回は、Wi-Fiが繋がらない原因と合わせて、対処方法について解説していきます。

Wi-Fiが繋がらないときに考えられる原因8つ

Wi-Fiが繋がらない原因は多岐にわたります。その中でも、特に多い原因について紹介します。該当する原因がないか確認していきましょう。

1. パソコンのWi-Fi受信がOFFになっている

ノートパソコンを利用している場合に多い原因の1つです。ノートパソコンのWi-Fi受信設定は、設定画面からのほか、物理ボタンによってもON/OFFできるようになっています。パソコンの設定画面や物理ボタンを確認し、OFFになっていないか見てみましょう。

Windows 10であれば、コントロールパネルの「ネットワークとインターネット」の設定からWi-FiのON/OFFが確認できます。

2. 接続先が変更されている

Wi-Fiは、接続先となるルーターのSSID(アクセスポイントの識別名)を指定し、パスワードを入力することで接続しています。しかし、パソコンの設定によっては、接続したいルーターとは別のルーターに自動的に接続先が変更される場合があります。Wi-Fiの接続設定を確認し、接続すべき職場のSSIDが選択されているか確認しましょう。

3. SSIDやパスワードが変更されている

SSIDやパスワードは変更することが可能です。特にパスワードは、セキュリティ強度を高めるために定期的に変更されることもあり得ます。いつも接続しているSSIDとパスワードを確認し、間違いがないなら、パスワードが変更されたかどうかを念のため、ネットワークの管理者に問い合わせましょう。

4. ルーターや中継機の電源が入っていない

そもそも、ルーターや中継機の電源が入っていない場合も考えられます。中継機はアクセスポイントとも呼ばれ、ルーターと端末（パソコン、スマホなど）の中継役を担う機器です。ルーターや中継機の電源が入っていなければ、ネットワークに接続する「道」が遮断されているようなものなので、Wi-Fiに接続できなくなります。

5. 中継機の位置が悪い

パソコンを持って移動する際にWi-Fiが繋がらなくなる原因として、中継機の位置が悪いことが挙げられます。Wi-Fiは電波を使ってネットワークに接続しており、使用する電波はパーティションなどの影響で弱まる可能性があります。

6. Bluetoothデバイスなどによる干渉

Wi-FiやBluetoothは、電波を使って無線通信を実現しています。Wi-Fiにはいくつか規格がありますが、Bluetoothと同じ周波数帯を利用するものがあります。そのため、場合によってはお互いに干渉してWi-Fiに接続できなくなります。同様に電子レンジなどの家電も同じ周波数帯を利用するため、電波干渉がないか確認してみましょう。

7. 同時接続可能台数をオーバーしている

Wi-Fiルーターは同時接続可能台数が決まっています。同時接続可能台数を超えると、通信が遅くなったり、接続できなくなったりします。法人向け（業務用）のWi-Fiルーターは多くの端末が同時接続できるように作られていますが、オフィスの環境変化などで接続台数が増えた場合は要チェックです。

8. セキュリティ対策ソフトウェアの干渉

端末に導入しているセキュリティ対策ソフトウェアの干渉によって、Wi-Fiにつながらなくなるケースもあります。セキュリティ対策ソフトウェアは、ウイルス対策だけでなく、ファイアウォールなどの複数のセキュリティ機能が含まれます。そのため、セキュリティ対策ソフトウェアの設定や誤作動が邪魔をして、Wi-Fiにつながらなくなることがあるのです。

Wi-Fiが繋がらないときの対処法

Wi-Fiが繋がらないときの具体的な対処法について解説します。パソコン本体⇒セキュリティ対策ソフトウェア⇒ルーターや中継機と、近いものから遠いものの順番に1つずつ確認していくのが原則です。

< パソコンを確認する >

Wi-Fiが繋がらないときにまず疑うべきは、あなたが利用するパソコンの状態です。次の順番で設定などを確認していきましょう。

1. 不要なソフトウェア・アプリケーションを閉じる

ソフトウェアやアプリケーションによる干渉が原因の場合もあります。必要のないソフトウェアやアプリケーションは閉じてみましょう。

2. パソコンを再起動する

Wi-Fiが繋がらないのはOSの干渉も考えられます。何かのはずみで設定が変更されたり、アップデートなどの影響でWi-Fiにつながらなくなったりするときもあるのです。パソコンを再起動すると、設定が戻ったり干渉していた原因がリセットされたりすることもあります。困ったら一度再起動をすると覚えておきましょう。

< セキュリティ対策ソフトウェアを確認する >

パソコンの確認をすべて行ってもWi-Fiにつながらない場合、セキュリティ対策ソフトウェアが干渉している可能性が考えられます。

セキュリティ対策ソフトウェアの使用を一旦停止してみましょう。もし停止でWi-Fiにつながるようになれば、原因はここにあります。セキュリティ対策ソフトウェアは、ウイルス対策以外にもファイアウォール機能などが含まれます。機能を1つずつ停止して、さらに原因の特定を進めましょう。

可能性として高いのはファイアウォール機能による干渉です。設定変更が可能であれば、1回ファイアウォール機能を停止し、

動作するか確認してみましょう。

セキュリティ対策ソフトウェアを停止したままパソコンを利用するのは危険です。セキュリティ対策ソフトウェアの何が原因となっているか特定できない場合は、メーカーに問い合わせたほうが確実です。場合によってはソフトウェアの変更も考えましょう。

<ルーター・中継機を確認する>

パソコン、セキュリティ対策ソフトウェアに原因がない場合は、ルーターや中継機に原因がある可能性が高くなります。ルーターや中継機は、次の順番で設定などを確認しましょう。

1. ルーターや中継機の電源、ステータスランプを確認

ルーターや中継機の電源が入っているか、ステータスランプが赤色などのエラーを示す表示になっていないか確認しましょう。

2. 接続する端末を近づけて確認

電波がうまく伝わっていない可能性も考えられるため、接続する端末を近づけて接続できるか確認します。もし近づけることで接続できるのであれば、中継機の位置を変更するとよいでしょう。

3. ルーター、中継機を再起動する

ルーターや中継機は、一見すると問題なさそうに見えても、うまく動作していない場合も考えられます。ここまでの確認で解決しない場合は、ルーターや中継機を再起動してみましょう。再起動後はしばらく立ち上げに時間がかかるため、ステータスランプなどで状態を確認します。

Wi-Fiが繋がらないときは1つずつ原因を確認しよう



Wi-Fiは無線接続なので、ネットワークへの接続が目に見えず、繋がらない原因が分かりにくいかもしれません。原因が端末側にあるのか、ルーターや中継機側にあるのか、問題の切り分けを行うためにも、1つずつ確認して原因を潰していくのが改善の近道です。

NTT西日本では、ラクラク設置でカンタン導入ができるWi-Fiサービスを提供しています。「スマート光ビジネスWi-

Fi」は、「簡単」「高速」「安心」が特長のWi-Fiで、急なトラブルにも電話1本で対応致します。

サポート専門スタッフによる遠隔トラブル対応もありますので、Wi-Fi導入後の運用について不安があれば、ぜひ一度お問い合わせください。

※掲載している情報は、記事執筆時点のものです